

2021年度事業計画

学校法人 沖永学園

1. 学園の現状と基本方針

沖永学園は、創立以来社会のニーズに応えるため組織の設置・改善を重ね、現在では短期大学1・高等学校1・中学校1・幼稚園2を擁している。「礼儀・努力・誠実」を建学の精神とし、帝京大学グループとしてのメリットも生かしつつ、人格を磨き社会で役立つ実学を重視する。

2. 教育研究に係わる課題と方針

(1) 帝京短期大学

① 生活科学科

<生活科学専攻生活文化コース>

インターンシップはコロナ禍において引き受け企業が減少しているが、担当教員とキャリアサポートセンターが受入れ企業開拓に注力し今後も継続する計画である。地域貢献関係は、地域イベント中止が続く中縮小はやむを得ないが、コロナ禍での新しい地域貢献活動を工夫したい。昨年から開始された「ささはたまちのお手伝いマネージャー」への参加の頻度と派遣者数や時間の追加により地域づくりの密度を高めたい。同時に、その会場で配布して人気がある「四万十新聞バッグ」の制作を一層工夫して、地域住民に貢献したい。社会性育成支援の見直しと強化を関連科目において課題とし、例えば科目「ボランティア論」においては、ボランティアへの深い理解と積極性を持つように指導を工夫する

<生活科学専攻養護教諭コース・専攻科養護教諭専攻>

養護教諭に必要とされる資質・能力や実践力を磨くために現場から学ぶことを重視し、授業以外に渋谷区の教育委員会と連携した区立小・中学校でのボランティア活動、地域と連携した子ども食堂や障がい者施設などでのボランティア活動を積極的に取り入れる。教育課程では、文部科学省の規定を上回る独自科目を設定し体験活動や演習を充実させ、一人職種である養護教諭が現場に出てすぐに仕事ができる力をつけることを目指す。採用試験対策やリカレント教育にも力を入れ、卒業生を対象にした教育も継続して実施する。専攻科においては、さらに学びを深めたいという学生のためにI種免許の取得と合わせて、養護教諭として仕事をするにあたり自らの課題解決に向けて追究できるような研究活動にも力を入れた教育活動を推進していく。

<食物栄養専攻>

2020年度の事業計画を継続し、給食管理実習校外の学習成果を良好に獲得するため、

給食管理実習校外の事前・事後指導の充実を図る。特に教員と学生および学生間のコミュニケーションがとれる環境をつくり、学生個々が実習における学習成果を獲得する。総合演習において将来栄養士として仕事に就くための心構えおよび専門知識を習得するようにする。2020年度は、就職、進学において大変良好な結果であった。2021年度もキャリアサポートセンターと常に連絡をとり、学生面談を通して就職・進学活動を支援する。学生が取得した資格および習得した専門知識を活かした進路に進めるようにする。教員は、より一層の学習支援を行う。

②こども教育学科

昨年度に引き続き学生の現場対応力・実践力強化を重点課題とし、具体的対応としては①渋谷区教育委員会および子ども家庭部の協力による幼稚園・保育所での一日参加実習での事前指導とボランティア活動への参加、②帝京こども教育研究会（年2回実施）（講演や帝京グループ4幼稚園との研究交流）の運営と参加、③空きコマ時間を利用した帝京めぐみ幼稚園における体験実習、④キャリアサポートセンターと連携した公務員試験受験指導の強化、⑤独自科目「専攻演習」等における多様な学習（学外学習、学科教員による特別学習等）の積極的導入などの実施を図る。

③ライフケア学科

<臨床検査専攻>

2020年度は新型コロナの影響により、4月はオリエンテーションのみの登校でオンライン授業での開始となった。6月からは対面授業となったものの、オンライン授業中の学習格差は否めず、オールSを取れるレベルの数パーセントを除いては厳しい出だしとなった。新入生のみが進級率だけに着目すると前年より6.2%の上昇となったが、依然として進級率が低迷している。3年生においては全員卒業、国家試験の合格率は94%の見込みである。また、東京都職員2名、千葉県職員1名の採用が決定した。2021年度は初年度初期の指導を強化し、早い時期からの学習習慣の定着を目指す。専任担当の科目においては、小テストを実施し毎回の学習状況を把握していくことで学習が追い付いていない学生に対応していく。2022年度の新カリキュラムでは1年前期から実習を組み込むなど、学生がより早い時期から興味をもって学習できるものに改善する。2年生においては、講義内容の深い理解と実習を両立できるような指導、3年生においては早い時期からの国家試験対策で全員の合格を目指し、成績優秀者には早期の就職活動をサポートしていく。

<専攻科臨床工学専攻>

臨床工学専攻では、工学の専門知識や技術ならびに医学の幅広い知識を修得できるよう授業の充実を図り、臨床工学技士資格取得を目指す。きめ細かな教育指導を行うために3年前に導入したスモールグループによる担任制を維持し、学習目標計画や生活・進路指導などについて指導を行う。さらに、国家試験対策として各試験（学内模試 全国統一模試）の強化や学会検定試験の取得を目指し、最終目標の国家資格取得に向けその向上を図る。

<柔道整復専攻>

昨年、新カリキュラムの完成年度を迎えた。2021年度は柔道整復師の資質の更なる向上と社会に必要とされる医療従事者の教育を目指し、各講義担当教員と連携をとり基礎教科、専門教科ともに授業内容を醸成させていく。また、新カリキュラム内容が反映される初の国家試験実施に備え、3学年に対しては学生一人一人のレベルに応じたきめ細かい指導を行っていく。具体的には学力別の班編制、チューター制度の導入、グループワークによる学生間の学習、それらと連携した授業外補講の実施を予定している。また、本校の特徴である客観的臨床能力試験を再整備し、社会で必要とされる「治す力」を備えた学生の育成を目標に指導を継続していく。

④通信教育課程

説明会、卒業生(同窓会)等を通じて学生募集活動を強化する。就職希望者に対する情報提供、フォロー体制を強化する。入学オリエンテーションの充実を図るとともに、在校生に対して、学生便覧、サブテキスト、帝短通信・担任等を通じてレポート作成のポイントや注意点等への学習指導を充実させる。

(2) 帝京八王子中学・高等学校

知・徳・体の全人教育を、生徒の個性と発達段階に即して行い、健全な育成を期することを教育目標とする。努力をすべての礎として、教育目標達成の手段として校訓『礼儀・努力・誠実』を定め、入学した生徒が一人の例外もなく大きな成長を遂げて卒業し、更に希望進路を実現できるよう、面倒見よく愛情に裏打ちされた厳しさの中にも暖かさを持った教育・指導・助言を行う。

また、2021年度の中学学習指導要領改定のもと、中学では特に読書習慣を身につけ、それにより読解力を向上させるための独自プログラムを実践していく。高等学校では、2022年度高等学校指導要領改定に対応し、教育目標を実現するため、教育課程の見直し、再編成に取り組む。生徒へのより効果的な教育を行うために、教職員の教科指導研究、進路指導研究など、研修を積極的に参加・実施し、知識や能力の向上をはかる。

生徒を取り巻く環境の国際化への対応は、語学研修だけでなく、実用英語検定受験必須化、短期ターム留学の推進、海外短期留学生受け入れ等を進め、併せて本校の国際理解教育を広く周知させる広報活動にも工夫改善を行うことで、本校の教育に適性を持つ生徒のより多くの入学を実現させる。

(3) 帝京めぐみ幼稚園

遊びを中心とした生活を通して、一人ひとりに応じた総合的な指導を行う。そのためには、幼児理解に基づいた計画的な環境の構成によって幼児が主体的に取り組み、遊びへの意欲を持てるようにする。具体的には、身近な動物への触れ合いを通して「思いやり」「優しさ」の心を育み、命の大切さを学ぶ「動物介在教育」を引き続き実施する。また、帝京短期大学食物栄養専攻学生による給食を取り入れた食育を実

施している。さらに、短大キャンパスを利用した活動や自然体験、花壇や畑作業、地域の小中学生の職場体験受入や地域の母子を対象に子育て支援活動(ふれあいタイム)を実施する。このような幼稚園内外の様々な人々とのかかわりなど、社会体験、直接体験のできる場を取り入れる。

(4) 帝京にしき幼稚園

「よくみる・よくきく・よくする」をモットーに、遊びを中心にしながら多様な体験を通して、個を発揮し礼儀正しく思いやりのある子どもの育成を目指す。そのために幼児理解を基盤として計画的に環境を構成し、指導内容の充実を図る。具体的には、指導計画を立案し、評価の充実を図り、幼児の発達を見通してそれぞれの時期に必要な教育内容を明らかにした計画性のある指導を行う。また、園行事や日常の活動を通して造形、身体、音楽などを表現する楽しさや感動する心を育てる。

3. 教育環境の整備

帝京短期大学では、コロナウイルス感染拡大防止の影響下で教育環境を維持すべくクラウド基盤 Microsoft 365 及び Teams を導入し、授業配信に対応できる会議用カメラ、マイク、大型ディスプレイ及び配信用コンピュータを導入した。

2021年度は、2020年度検討予定であった学内無線 LAN 環境構築及び講義室のハイブリッド講義実施に対応する教室設備（プロジェクタ等）の整備を検討する。図書館・ラーニング commons の蔵書管理システムやタブレット等の機材が導入から5年を経過し、経年劣化や保守打ち切りが発生するため更新計画を検討する。また、教職実践演習の環境整備のために必要となる ICT 設備・学内インフラストラクチャについて設備導入の検討を行う。

帝京八王子中学・高等学校では、2014年6月に竣工した、新体育館「蔦永館」が日々の体育の授業やクラブ活動はもちろん、さまざまな講演会、吹奏楽部、ダンス部の発表会など多目的に利用されており、保護者や一般来場者にも教育環境のアピールを行っている。また、教職員が、より個々の生徒へ接することができるように業務改善を図り、新たに教務システムを導入する。生徒にとってより良い ICT 環境の具体化を検討する。GIGA スクール構想対応や学内ネットワーク整備において短期大学システム統括部門との連携を強化する。

帝京めぐみ幼稚園ならびに帝京にしき幼稚園においては、各保育室の保育環境、備品、園庭の整備等、園児の健康により配慮した保育環境を整える。両幼稚園の情報発信強化のため、ホームページを両幼稚園で速やかに更新することができる体制に切り替える。

4. 学生支援の充実（帝京短期大学）

学生の心身の健康問題の対応・学習支援・進路選択をトータルで支援していけるよ

う、各部署の教職員で構成された学生相談支援委員会で学生情報の共有を図り適切な支援につなげていく。また、保健室に複数の養護教諭を配置し担任との連携を図り、個々の学生の対応を丁寧に行うことで、心身の健康問題の早期発見や対応につなげていく。専門的な支援が必要な学生に対しては、帝京平成大学臨床心理センターでカウンセリングを受けられるよう連携を図る。さらに、予防教育の一環として、全新入生を対象とした性教育特別講義の実施や、保健だよりの定期発行を行い、健康への意識向上を図る。学習面については、2017年度より学習支援教員を配置し、学習面で課題を抱える学生の個別支援を開始している。2018年度から週1日の定期的な支援を充実させた結果、学生の成績や意欲等にも変化が表れている。様々な背景を抱える学生への対応と適切な支援を提供するためにも、全教職員を対象とした研修を継続的に実施していく。

就職・進路指導にあたっては、キャリアサポートセンターが中心となって就職対策委員会の担当教員との連携のもと学生をこまめにフォローすることで、実就職率85%以上を目標としている。学生面談を実施し、適宜状況をフォローし就職・進学をサポートしていく。また、授業(社会人入門セミナー)での外部講師招聘や新卒応援ハローワーク等との連携等により就職指導の充実を図るとともに、学内合同企業説明会等の機会も設けていく。

5. 学生募集計画 (帝京短期大学)

2021年度入試より大学入学者選抜実施要項の見直しに伴い、本学も入試日程や選抜方法の見直しを行った。アドミッションポリシーに合致した学生を受入れるため、10月から3月にわたり総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、社会人選抜など多様な入試制度とともに大学入学共通テスト利用入試においても募集していった。しかし、2021年度入試は総合型選抜の選考方法を面接型から筆記型に変更したことを主因として苦戦を強いられた。2022年度入試においては総合型選抜の選考方法につき変更を加える計画である。対面イベントとしては5月～9月にかけてオープンキャンパス、8月9月に入試説明会を併行して実施する。3月には高校2年生を対象とした春のオープンキャンパスを実施し、次年度のイベントに繋げていく。また、入試広報課職員のみならず教員も高校訪問を行い、本学の教育内容や学習成果を説明するとともに募集活動に努めている。

インターネットやスマートフォンの普及に伴い、広報活動も新聞や雑誌等の紙媒体からWeb媒体への広告に移行をすすめていく。特にホームページにおいてはこまめな情報の更新に努め、パソコンサイトはもとよりスマートフォンユーザーに対しても閲覧しやすい画面構成にしている。さらに、見学者や電話の問い合わせに対し、懇切丁寧な対応をすることで志願者の増加につなげていく。

6. 地域社会への貢献 (帝京短期大学)

渋谷区とのS-SAP協定を軸として展開しているが、コロナ禍によって活動が中止さ

れている状況である。今夏に予定されているオリンピック関連事業や、ペンディングになっている渋谷区の公開講座事業であるハチ公大学への協力等、協力要請に対応していく。コロナ禍においてもかろうじて実施されてきた「ささはたっこ(こどもテーブル)」や「ささはたカフェ」、「六号坂通り花活動」、「近隣地域美化活動」、「代々木警察ボランティア隊」などの他、長年積み重ねてきた「地域のイベント支援(渋谷フェスティバル参加など)」も催されれば継続する。これらの事業展開によって学生の社会力と就職力の向上に繋げていく。

7. 自己点検・評価 (帝京短期大学)

2021年度の自己点検・評価は、2020年度同様教職員全員がPDCAのシートを活用して行う。加えて各委員会へもPDCAシートを用いて自己点検・評価を実施し、検証していく。課題については、各部署において改善を検討し、図る。

学習成果報告書は、2018年度より全科目について実施したが、2021年度も継続して学習成果報告書の作成を全教員へ依頼し、授業改善に繋げ、学生の学習成果の獲得を向上させる。初任者対象の自己点検評価説明会を実施する。

8. 2021年度予算の概要

(1) 収入

帝京短期大学、帝京八王子中学・高等学校の学納金は、入学者数、在學生数減により前年度予算比減収、帝京めぐみ幼稚園と帝京にしき幼稚園では保育料改定もありほぼ横ばいを見込む。学校法人全体では、学納金は前年度予算比減少の見込み。

(2) 支出

人件費抑制をはじめ各学校・幼稚園とも経費削減に努め、前年度予算比支出減を見込む。

(3) 事業活動収支差額

経費削減に努めるが収入減少を補えず、事業活動収支差額は学校法人全体で若干減少の見込みである。

以 上